

## 国際造形芸術連盟 第三回総会に出席して

田 中 忠 雄

ウィーンの気候は札幌とはほぼ同じように感じられた。総会の開かれた九月下旬頃には公園の木の葉の色も少し黄味をおびて、やわらかい秋の光にまつまれてこの典雅な都は一層美しく見えるのであった。私たち日本からの代表三人はヴェニスで開催中のビエンナーレを見た上、九月二十三日夕方このオーストリーの首都に着いた。会議は二十六日からなのだが、始まつてしまうと日程がぎつしりつまつていてとても見物などできそうもないので早目に到着して、有名なウィーン的美術館などを見ることにしたわけだ。この美術館はヴェラスケスとデューラーとブリュッゲルの代表的傑作を数多くならべていることで欧州でも有名なのだが、その話はここでは略すことにする。

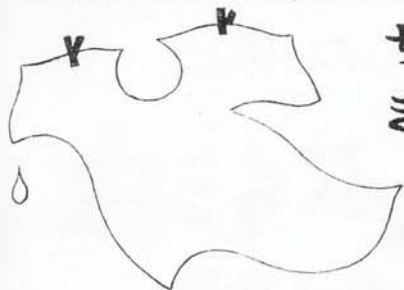
さて、会議について語る前に順序として国際造形芸術連盟 (International Association of Plastic art 略称 I A P A) について少し説明しておいた方がよいかと思う。

まず創立は一九五四年でその年の九月に第一回総会がヴェニス

で開催三十カ国代表の参加があり、日本からは清水多嘉示氏他三人の代表が出席、原水爆実験廃止を美術家の責任として提案して大きな反響をよんだ。議事の主なものをあげてみると、美術品の関税障壁の撤廃、加入国の美術館の無料入場、著作権問題等で、この時日本は常任理事国にえらばれ現在では阿部展也君がその任に当たっている。

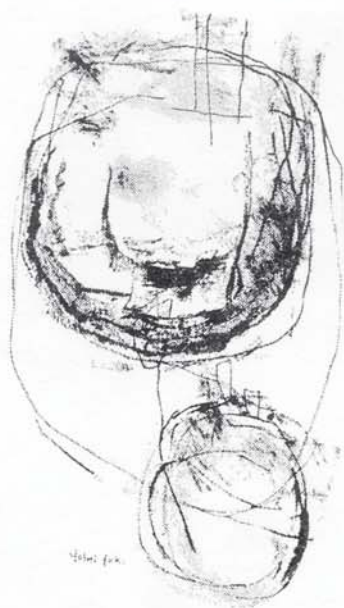
第二回総会は一九五七年、ユーゴスラヴィアのドブロニクで開催、日本からは阿部展也君が代表として出席、この時はグッゲンハイム賞の制定、美術家の法的保護、版画及び彫刻鑄造に法的番号を附する問題などが討議されたが I A P A の国際展参加問題についてはげしい意見の交換があつたことは美術批評家に対する美術家の反撃的態度を表わすものとして、この提案内容の可否は別として、第二回総会の特色だつたようである。

以上二度の総会の議事によつて示されたように国際造形芸術連盟とはどんな目的をもつて組織され、三年に一度の総会でどんな



サアッと洗い上つた  
まっ白な魅力!

ウージ2石版



ことを議題としてとりあげているか大体的見当はつくと思う。つまり美術団体、あるいは美術家にとつて国際的に共通する問題、つまり美術家の生活を守りかつ改善し、各国の美術文化を高めようとするにある。この連盟に加盟しているのは現在四十四カ国ありその国内組織は國によつて多少ちがうが日本では日本美術家連盟であり、連盟の委員の中から十七名の I A P A 国内委員がえらばれて、總會できめた決議事項を国内で実行する仕事をしたり、議案の審議など、本部の活動に協力している。

そこで昨年の第三回總會について語る訳だが、會議は三つの分科委員会に別れ、私はその第一委員会に出席した。ここでちよつと横道にそれるが私たち代表は三人とも語学力が弱いので、あらかじめ日本大使館にお願いして通訳を選んでおいて貰つた。その一人に札幌生まれのピアニスト小川京子さん（小川マリさんの姪）が居られ、会期中私に協力して下さつたのは奇遇でもあり、感謝でもあつた。

第一委員会の主な議題は「画家、彫刻家と建築家との協力を規正するための協定の採択、美術家の所得税についてのアンケート回答に関する本部の報告および事態改善のための提案採択、美術教育の資格に関する規定の審議など社会と美術に関する事項であつた。

第二委員会では美術の国際競争統一のための規則、彫刻の鑄造及び版画原作品の合法的數量を如何に定めるかというようななかなか困難な問題で日展彫刻家の山本雅彦君がこれに當つた。

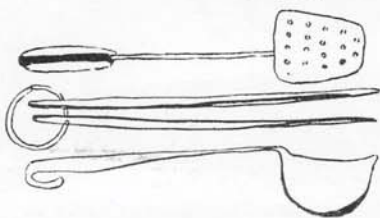
第三委員会には加山四郎君が出席、各国国内委員会の報告や新しく出来る国内委員会、また、ラテンアメリカやアジアなど地域的にセンターを作つて常時連絡して共通の問題を研究するという提案の審議などが行なわれた。

各国の事情がちがうのでなかなか議事がまとまらなかつたり、インドやギリシャの代表のように發言の機會を利用して長々と宣傳、広告めいた演説をしたりするむきなどあり、一つの議題の審議にもひどく手間どるので、これはなかなかの辛抱のいるものだつた。しかしこうして決められたことが各国国内組織を通じて徐々に実現し、事態改善に向かつて行くことは認められなければならない。日本から海外に出かけて行く人が美術家連盟から發行する身分証明カードをもつて行けば多くの國の美術館では入場無料とか割引の待遇を受けるのも I A P A の決議が実行されているからである。また近年外國の美術家で日本に旅行する人たちが連盟を頼つてくる場合が度々あるが、連盟では適当な方法でお世話したり、時にはお茶の会など催すことがある。私もイスラエル旅行に當つて同國の美術家連盟のお世話になり、二週間の旅行が非常にスムーズにかつ安い費用ですることができた。

世界が今後ますます一つにまとまつて、お互い助け合つて美しい人間社会をつくつて行くために I A P A の働きは一層重要なものになるし、われわれも協力しなければならぬという感想をもつた次第だ。日本もオリンピックが済んだ頃には總會を引受けなければならぬと思うが、ウイーンでは市長や文部大臣が精神的にも経済的にも相当援助して會議を遂行させたようであつた。こういう方面の接待で私たちは毎日議事終了後珍しい所へ案内されたり、御馳走になつたり、よい音楽をきいたり、議事は苦しかつたがたのしいこともずいぶん多かつた。代表としては十分責任を果たしたとは思えないが私自身は大変勉強になつたと思つている。

こういう會議出席の報告などは概してよんでも面白くないものだし、書く方も面白いものではないが、I A P A について少しでも分つてもらえば結構だと思つた。

カラッと揚って、サラッとした味!!



北光の**天ぷら油**

北光製油